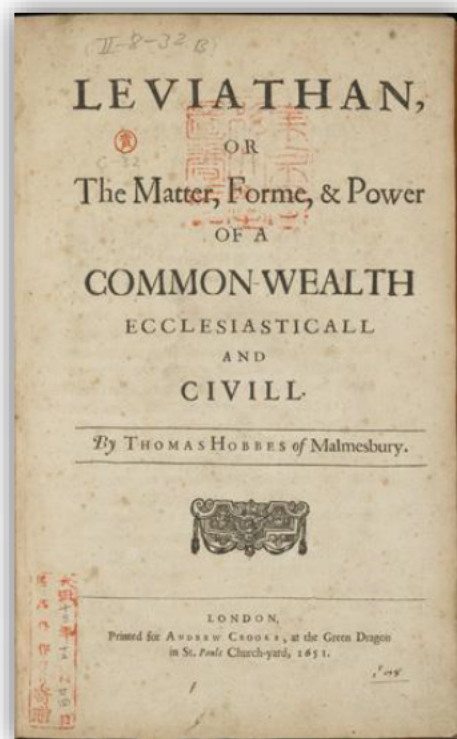


西洋古典資料の保存に関する 拠点およびネットワーク形成事業 （平成28年～平成30年）



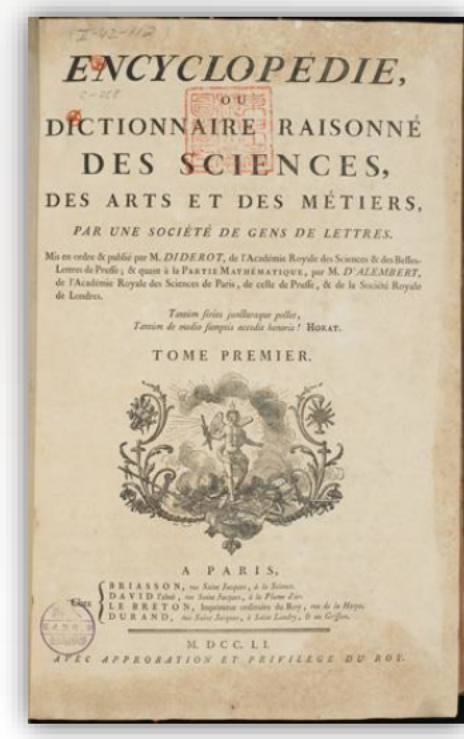
平成28年度～平成30年度
文部科学省共通政策課題
「文化的・学術的な資料等の保存等」採択



ホブズ「リヴァイアサン」



ルソー「社会契約論」



デイドロ、ダランベール
「百科全書」

平成28年1月20日

一橋大学社会科学古典資料センター
一橋大学附属図書館

事業概要

明治以降わが国の発展に寄与した学術文化遺産である西洋古典資料の現状

- ・ 深刻な劣化
- ・ 専門人材の枯渇
- ・ 保存技術継承の危機

明治以降わが国では、西洋の学問や思想を積極的に取り入れる過程で、各大学等において多くの西洋古典資料を収集してきました。これらの資料は、わが国の研究及び社会の発展に寄与し大学の図書館等で貴重書として保存されてきました。しかし近年、資料の経年劣化が進む一方、保存対策は進んでいません。特にここ数年、各大学では、長く貴重書を担当し専門的知識を持った職員が定年退職を迎えているケースが多く、保存に関する専門的知識や技術の継承が危惧されています。

学術文化遺産ともいえる西洋古典資料の今後の長期保存を図る上で、適切な保存措置と人材育成が喫緊の課題となっています。

一橋大学が果たすべき使命

- ・ 社会科学研究的拠点
- ・ 古典資料研究図書館
- ・ 保存修復の研修機関

一橋大学は、明治8年に商法講習所として開学して以来、社会科学の発展に寄与し、メンガー文庫、ギールケ文庫等約8万冊に及ぶ世界的にも価値ある古典資料を収集してきました。

一橋大学社会科学古典資料センターは、これらの貴重な古典資料を一括管理し、社会科学諸分野の研究者のより高度な研究に資するとともに、その保存について研究を行う、国内で唯一の西洋古典資料に特化した研究図書館です。センターではこうした特色を活かし、西洋古典資料の保存について蓄積された知識と経験を講習会を通じて全国の図書館職員等と共有しており、国内で唯一の研修機関としての機能も果たしています。

本事業「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成」の意義

- ・ 中核的専門人材育成
- ・ 保存状況調査
- ・ ネットワーク形成

平成28年度より3年間実施する本事業は、他機関から実務研修生を年間2~4名受け入れ、センターの保存修復作業や講習会実務全般に携わるOJTを実施します。これにより、西洋古典資料の保存について各地区の人材育成を先導する中核的な専門人材の育成を図ります。

また、全国の大学等研究機関における西洋古典資料の所蔵状況、保存体制等についての調査を行います。調査には専用の調査票を用い、センター教員・専門助手と外部の専門家が連携して現地調査を行います。

これらの取組みの成果を公開講座等によって発信するほか、他大学での研修会等についても積極的に行い、各大学等研究機関の資料保存担当者との情報共有、意見交換を行うためのネットワーク構築を進めます。

期待される効果

- ・ 全国的な保存の底上げ
- ・ 学術文化遺産の維持
- ・ 学問研究の進展

本取り組みにより社会科学分野における世界最高レベルの学術基盤の整備・公開を進め、全国的な西洋古典資料保存の底上げおよびわが国の学問研究の進展に資することができます。

実務研修生派遣の流れ



派遣元：
西洋古典資料所蔵大学等図書館

研修生を推薦

事務手続き

①推薦 派遣元 → 受入先
 ②受け入れ決定 受入先 → 派遣元
 ③協定締結 受入先 ⇄ 派遣元
 給与、交通費、宿泊費、出張、
 超勤手当等について取り決め

研修生を受け入れ

受入先：
一橋大学社会科学古典資料センター

実務研修
 (3~6か月) *オプションあり

①専門知識の講義
 ②保存修復実務の実習
 ③希望により近隣の図書館等を訪問調査

成果を還元

保存状況調査
 調査・記録
 アドバイス

研修生と共に
 研修会を開催
 成果を地域に還元

派遣元：
西洋古典資料所蔵大学等図書館

タイム・スケジュール

	H28. 2～3月	H28年度	H29年度	H30年度
事務手続き	受入にかかる事務手続き・協定等の準備募集開始	派遣元・受入先間の事務手続き	派遣元・受入先間の事務手続き	派遣元・受入先間の事務手続き
修復予定 点数		1500点	1500点	1000点
研修生 受け入れ		6～8月 1名 9～11月 1名 12～2月 1名 計 3名	4～6月 1名 7～9月 1名 10～12月 1名 1～3月 1名 計 4名	4～6月 1名 7～9月 1名 10～12月 1名 計 3名
追加研修		7月資料保存講習会 9月ひらめき☆ときめきサイエンス 11月古典資料講習会	7月資料保存講習会 9月ひらめき☆ときめきサイエンス 11月古典資料講習会	7月資料保存講習会 9月ひらめき☆ときめきサイエンス 11月古典資料講習会
追加研修 (他機関)		(例)国文研見学	(例)国会図書館見学	(例)東京大学見学
保存状況 調査		古典資料センター教員が訪問調査	古典資料センター教員が訪問調査	古典資料センター教員が訪問調査
ネットワーク 形成	国際ワークショップ開催	実務研修・調査結果の発信 国際ワークショップ開催	実務研修・調査結果の発信、研究会開催	実務研修・調査結果のまとめと発信 ネットワーク形成のためのシンポジウム開催

全国的ネットワークの形成

保存状況調査

実務研修

各地の大学図書館等の保存状況調査および基礎データ作成

実務研修(OJT)による長期人材育成

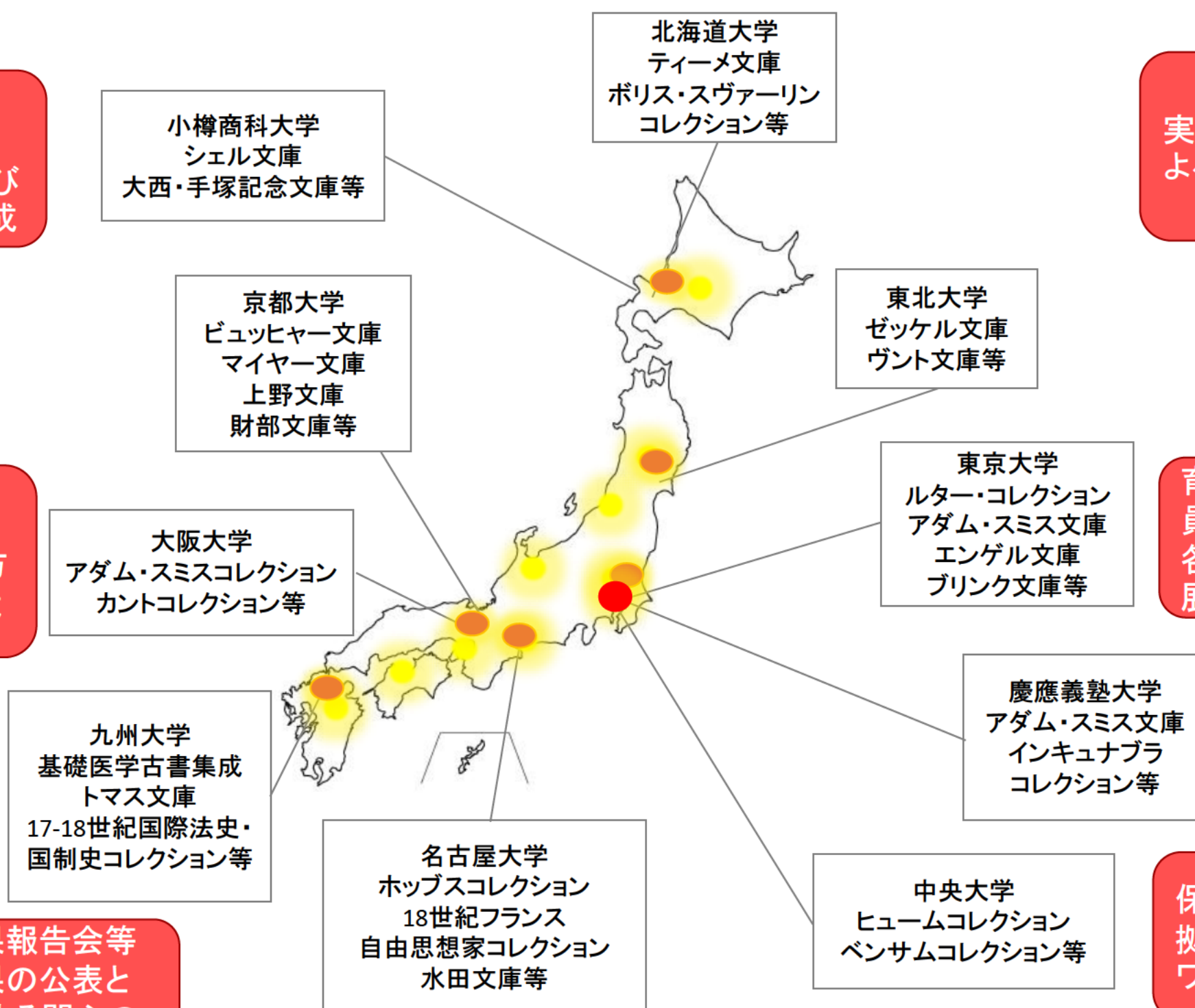
調査結果・基礎データを元にした適切な対応方法による保存状態の改善

育成した図書館職員等を中核として、各地で育成事業を展開

公開講座、成果報告会等による調査結果の公表と古典資料に関する関心の喚起

保存修復に関する拠点形成とネットワーク構築

全国の大学で所蔵する主な西洋古典資料



- 全国的な拠点＝一橋大学
- 人材育成による各地の中核拠点
- 全国への波及効果

古典資料の活用により今後の学問研究の進展に貢献

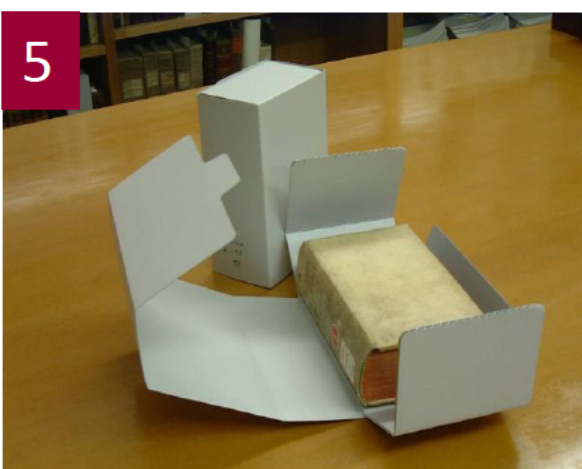
一橋大学の人材育成の実績

1. 西洋社会科学古典資料講習会 (35回開催) 毎年11月に3日間
対象：西洋古典を扱う国公立大学の図書館職員等 30人程度
内容：古典研究、書誌学、保存・修復に関する講義
2. 西洋古典資料保存講習会 (16回開催) 毎年7月に3日間
対象：西洋古典を扱う国公立大学の図書館職員等 10人程度
内容：保存計画の立案、修復のための実技演習
3. 「ひらめき☆ときめきサイエンス」 (3回開催) (日本学術振興会助成事業) 毎年7月に1日
対象：中学生・高校生 10人程度
内容：古典資料の解説、書籍修復や保存容器の作成体験

一橋大学は商法講習所（明治8[1875]年創立）以来140年を経た歴史の中で多くの社会科学の西洋古典資料を蓄積してきました。これらの貴重な資料を集中管理し、諸社会科学研究者のより高度な研究に資するために、社会科学古典資料センターは1978年に独立の機構と目的を持つ貴重書図書館として設立されました。

現在のセンターの蔵書数はおよそ8万冊です。この中には、カール・メンガー、オットー・ギールケ、左右田喜一郎の三教授の旧蔵書、フランクリン文庫、ベルンシュタイン＝スヴァーリン文庫という世界的に著名かつ重要なコレクションが含まれています。

西洋古典資料の保存修復について



西洋古典資料の保存修復は、

- ・歴史的製本についての知識
 - ・対象資料に応じた修復技法
 - ・保存科学についての理解
- を必要とする高度な専門技術です。

社会科学古典資料センターでは、専門スタッフによる保存作業を20年にわたって継続的に行っています。

保存修復の手順(左写真)

1.劣化調査

資料1点1点の状態を確認し、製本構造や劣化状態を専用のカルテに記録します。

2.紙の処理

破れや欠損のある部分は和紙としょうぶを用いて修理します。

3.保革作業

表装の革が傷んでいる本にはセルロースやアクリルポリマーを用いて保革作業をします。この作業で、革の耐性が増し、劣化の進行を抑えることができます。

4.保存製本

本文だけの資料や、閲覧が困難な仮綴本などには、保存製本を行います。この製本は、本文と表紙を簡単に分離でき、他の保存形態へ移行することも容易です。

5.保存容器の作成

表装の傷んだ本などに中性紙でジャケットをかけます。傷みの進んだ本、構造修復が困難な資料には、保存箱や封筒フォルダーなどの保存容器を作成します。

6.書庫内環境の整備

書庫内の温湿度管理、紫外線対策、地震対策、虫害対策などの措置によって、資料の劣化を防ぎます。